

曲目紹介

●サン＝サーンス：オーボエとピアノのためのソナタ op. 166

サン＝サーンス (Charles Camille Saint-Saëns 1835-1921) フランスの作曲家。フランス音楽界の重鎮として長く君臨し、膨大な数の作品を残しています。

○オーボエとピアノのためのソナタ

亡くなる1921年に作曲した管楽器のための3曲のソナタ（オーボエ、クラリネット、ファゴット用）の内の1曲。

第1楽章	Andantino	ニ長調	3／4拍子
第2楽章	Allegretto	変ロ長調	9／8拍子
第3楽章	molto Allegro	ニ短調-ニ長調	2／4拍子

演奏時間 約11分。

●C. シューマン：3つのロマンス op. 22 (オリジナル＝ヴァイオリンとピアノによる)

クララ・シューマン (Clara Josephine Wieck-Schumann, 1819- 1896) ドイツのピアニスト、作曲家。ロベルト・シューマンの夫人。ピアノ教師フリードリヒ・ヴィークの娘で天才少女として名を知られていましたが、父親の猛反対を振り切ってロベルト・シューマンと結婚。ロベルトの没後も、8人の子供を育てながら19世紀において最も高名なピアニストとして活躍。作曲家としてもピアノ協奏曲の他、多くの作品があります。

○3つのロマンス Op. 22 (1853年)

夫であるロバート・シューマンから1849年のクリスマスにプレゼントされた“オーボエとピアノのための3つのロマンス”をモデルにしての作品ということなので、この作品をオーボエで演奏することは有意義なことです。

第1曲目 Andante molto 変ニ長調 3／8拍子

第2曲目 Allegretto ト短調 2／4拍子

冒頭はロバート・シューマンの3つのロマンスの第2曲と雰囲気似ています。



ロバート・シューマンの3つのロマンスの2曲目冒頭



●R. シューマン アダージョとアレグロ op. 70 (オリジナル=ホルンとピアノによる)

ロベルト・シューマン (Robert Alexander Schumann, 1810- 1856) ドイツの作曲家。生き方も作品も“ロマン派の音楽家”という呼び名が最もふさわしい作曲家。

○：アダージョとアレグロ op. 70 (オリジナル=ホルンとピアノによる)

原曲はホルンとピアノのための作品 (1849 年)

作曲者自身によって独奏楽器をチェロやヴァイオリンに置き換えた版も残されています。

アレグロ部分には覚えやすい旋律が登場します。



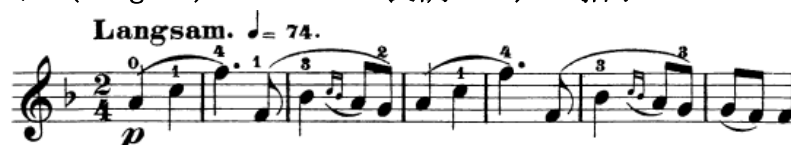
演奏時間 約 9 分。

○：5つの民謡風小品集より 第2曲・第4曲

原曲はチェロとピアノ、あるいはヴァイオリンとピアノのための作品 (1851 年出版)

第2曲 ゆるやかに (Langsam)

へ長調 2 / 4 拍子



第4曲 急ぎすぎず (Nicht zu rasch) ニ長調 4 / 4 拍子



演奏時間は約 6 分。

●プーランク：オーボエとピアノのためのソナタ FP185

フランシス・プーランク（1899—1963）はフランスの作曲家。軽妙洒脱な面と深い宗教的な面の双方で多数の作品を残しています。

○オーボエとピアノのためのソナタ
亡くなる前年の1962年の作品。

第1楽章「悲歌」（静かに、急がずに） 3／4拍子

第2楽章「スケルツォ」（活気よく） 6／8拍子

オーボエ、ピアノ共に高い技巧が要求されます。

第3楽章「嘆き」（きわめて穏やかに） 3／4、4／4拍子

演奏時間 約14分

●ドラニシニコヴァ：オーボエとピアノのための詩曲

マリナ・ドラニシニコヴァ（Marina Dranishnikova 1929-1994）ロシアの作曲家。
彼女の父親はマリンスキー劇場の音楽監督で、プロコフィエフの友人であったとのこと。
彼女の作品で知られているのはこの詩曲のみのようです。

○オーボエとピアノのための詩曲

8－11世紀のヴァイキングの活躍を描いた作品。

「北方の男たち」、「探検家」、「襲撃」、「遺産」の4部分から成ります。

オーボエ奏者のお気に入りの作品のようで多くの演奏会、CD集録に取り上げられています。

演奏時間 約8分

●サンカン：オーボエとピアノのためのソナチネ

ピエール・サンカン（Pierre Sancan, 1916 - 2008）フランスの作曲家、指揮者、ピアニスト。
1956年からパリ国立音楽院の教授。門下生にジャン・フィリップ・コラールなどがいます。

○オーボエとピアノのためのソナチネ（1957年）

第1楽章 Modere

第2楽章 Andante

第3楽章 Presto

演奏時間 約8分